

<<今月号の主な内容>>

<工事の進捗状況等>

- 取水槽地盤改良工事(地震対策)
- 改良盛土工事(津波対策)

<訓練等の実施状況>

- 配電線からの外部電源受電訓練の実施

<新規制基準への適合性申請の国による審査状況について>

- 4回の審査会合が開催

<その他>

- 静岡県および御前崎市による、津波対策工事ほか追加工事の点検・確認



<工事の進捗状況等>

■取水槽地盤改良工事(上図①)

- ・地震対策のため、4号機取水槽周囲の地盤改良工事を実施中

取水槽

平面図

断面図

セメント系材料により地盤を改良

地盤改良箇所

人工岩盤(コンクリート)

隙間部分にセメント系材料を充填

岩盤

5月22日撮影 4号機取水槽

5月22日撮影 耐震補強工事の様子

■改良盛土工事(左下図②)

- ・西側盛土内側へのモルタル吹付工事を実施中(津波が越流した際、盛土が削り取られないように)



<訓練等の実施状況>

■配電線からの外部電源受電訓練の実施[5月27日](左図③)

- ・発電所内の全交流電源喪失を想定し、掛川営業所配電部署にて発電所構内の配電用設備(6,600V)から3号機への配電線延長訓練を実施。[複合柱(組み立て式の電柱)や開閉器(電源のスイッチ)の設置、および配電線の接続]



<新規制基準への適合性申請の国による審査状況について>

■5月の国の審査会合は、4回(第38回~第41回)実施

詳細は、原子力規制委員会HPを参照ください。

< http://www.nsr.go.jp/disclosure/committee/yuushikisya/tekigousei/power_plants/hamaoka4/index.html >

<その他>

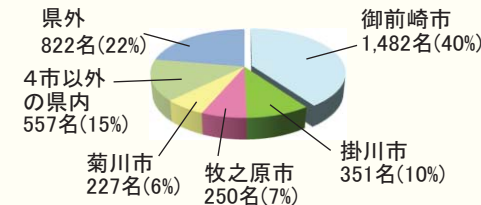
■静岡県および御前崎市による津波対策工事ほか追加工事の点検および確認

- ・5月20日、4号機原子炉建屋内の緊急時電源設備の据え付け状態および防波壁設置における地盤改良の工事状況などについて、静岡県および御前崎市による点検を受け、計画どおり工事が進んでいることを確認いただきました。

詳細は、弊社HPを参照ください。< <http://www.chuden.co.jp/resource/ham/270520tenken40.pdf> >

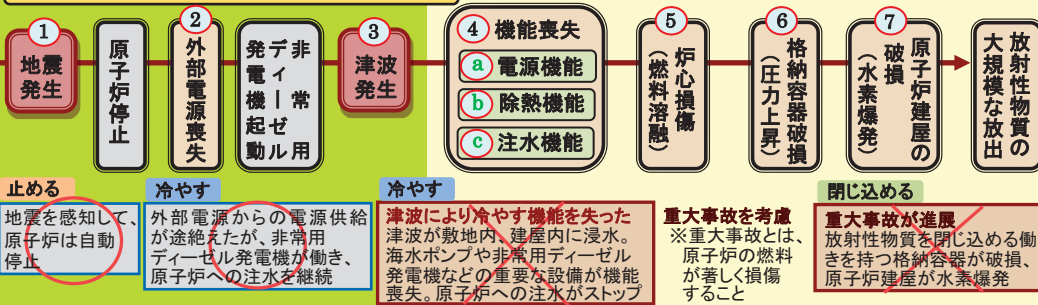
◆浜岡原子力発電所従事者数(5月1日現在)

(安全性向上対策工事従事者以外を含む): 3,689名
[うち、御前崎市・牧之原市・掛川市・菊川市在住:
2,310名(63%)]



＜浜岡原子力発電所における安全性向上に向けた対策工事の概要～新規規制基準への対応＞

東京電力 福島第一原子力発電所の事故の進展



1 地震対策 A

配管サポート改造

2 外部電源の信頼性強化策 B

浜岡線送電線 (275kV) 浜岡幹線 (50kV) 第二浜岡幹線 (50kV)

受電用変圧器を高台(海拔25m)に設置

・3系統6回線からの電力供給 (平成25年3月工事完了)

3 津波対策 C

防波壁(海拔22m掘付完了) 防波壁イメージ図

海拔22m
 海拔18m

3 津波対策 D

取水槽から敷地内へ海水が溢れることを防止する設備を設置

溢水防止壁

4a 5 6 電源機能強化策 F

※4号機分の設備(交流電源車・直流電源車)の配備は完了(平成27年5月)

交流電源車

4b 5 6 除熱機能強化対策 H

屋外の海水取水ポンプ(原子炉の機器を冷却<除熱>するための設備)が浸水し使用不能となった場合を想定し、防水構造の建屋内に、同じ機能を持つ設備を設置

ポンプ2台設置

4a 5 6 電源機能強化策 G

外部電源や非常用ディーゼル発電機が使用できない際に、原子炉の安全機能の「冷やす」機能を有するポンプなどに速やかに電源を供給するための設備を、敷高台(海拔40m)に設置

ガスタービン発電機建屋

ガスタービン発電機 (3, 200kW×6台)

緊急時海水取水設備(EWS) ポンプ室

4c 5 6 注水機能強化策 I

敷地高台(海拔30m)の地下水槽 ※3～5号機の共用として、約5日分の水量を確保(貯水量9,000m³)

3 津波対策(平成25年7月工事完了) E

仮に津波が防波壁を越えた場合、原子炉建屋内への浸水を防止

縦:約6.9m 幅:約7.1m 厚さ:約1m 重量:約40t

原子炉建屋内の水密扉

3号機大物搬入口の強化扉



■:設計基準の対策
 ■:重大事故基準の対策
 ※対策工事完了は二重線で表示

◆火災対策 P

回転 突感知器 消火剤 屋内の電動機(例)

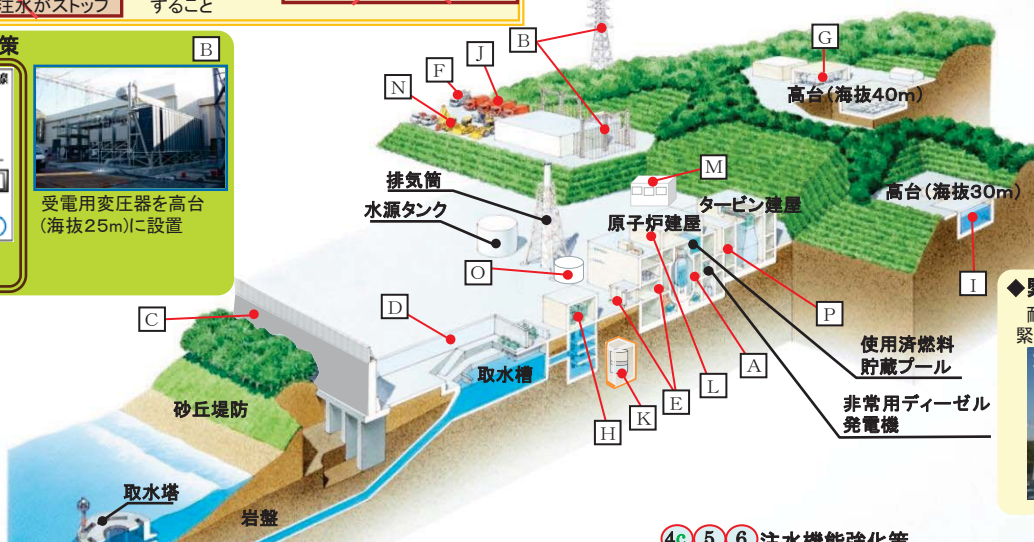
自動消火装置 <<屋内の電動機>>

◆外部火災・自然現象(火山・竜巻など)への対応策 Q

・軽油タンクの地下化

(現在) (工事後)

※可搬設備用燃料タンクも、津波の影響を受けない場所に地下式にて増設



◆緊急時対策所強化策 M

耐震構造の増築棟を設けて緊急時対策所を強化

現在の緊急時対策所

◆アクセス道路確保対策 N

※設備の配備は完了(平成27年3月)

がれき撤去用ブルドーザ

4c 5 6 注水機能強化策 J

炉心損傷、格納容器の過圧破損防止のため、河川等の取水源から発電所へ大量に送水するための設備を配備 ※4号機分の設備の配備は完了(平成27年3月)

大容量送水システム(ハイドロサブ)用ポンプ車等

7 原子炉建屋の破損防止対策 L

原子炉建屋ベント設備 ※原子炉建屋内から水素ガス排出のためのベント設備

放水

可搬型放水設備 ※可搬型放水設備で放水を行い、敷地外(大気中)への放射性物質拡散を抑制

4b 5 6 除熱機能強化対策 K

フィルタ(水や金属フィルタ等)を通してベント(格納容器内の気体の一部を大気中に排出する操作)を行うことで、格納容器内を除熱し、炉心損傷、過圧破損を防止する設備

フィルタを通すことにより放射性物質の大規模な放出を抑制

原子炉建屋 フィルタベント設備

4号機 フィルタベント本体

■ 安全性向上対策の完工時期については、4号機は2016(平成28)年9月頃、3号機は2017(平成29)年9月頃となる見通しです。なお、5号機については、引き続き検討を進めてまいります。

＜安全性向上対策工事の工程＞

	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度
安全性向上対策工事	4号機			
	3号機			